

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	権 裕美 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】	要 旨																				
論 文 題 目	17・18世紀フランス・モードにおける アンディエヌの受容	<p>本論文は、東インド会社を通して大量にもたらされた更紗、すなわちアンディエヌが、近世フランスでどのように模造捺染布を生み再輸出されたのか、またフランス服飾にいかにか受容され新たなモードを生み出したのかを分析したものである。</p> <p>第1章ではリシュリュール・コレクションに残されている布見本集とポンパドゥール夫人の財産目録から綿布を示す多彩な名称を検証している。アンディエヌの名称の多様性と、その多彩な使用状況は、アンディエヌがいかにか流行し当時の人々の生活に浸透していたかを示している。</p> <p>第2章では更紗の輸入・製造禁止令の考察と、禁止令をめぐる当時の経済学者による主張を通して、禁止令の無用性とアンディエヌ製造の必要性を考察している。また、禁令が解かれた後に盛んとなる国内産更紗において、文様の変化が捺染技法の展開に従うこと、文様が異国趣味と田園趣味に呼応することを示している。加えて捺染技法の進歩によって豊かな文様をもった更紗は室内装飾に使われ、アンディエヌの趣向が生活空間の幅い広い領域に広がっていたことが明らかになった。</p> <p>第3章では、トワル・ド・ジュイ博物館およびミュルーズ染織博物館に保存されている服飾遺品、および『ギャルリー・デ・モード』誌等の版面や絵画作品の描写を通して、アンディエヌ製衣服の受容実態を明らかにしている。更紗を素材とした衣裳が簡素化に呼応したモードであることを示し、更紗が18世紀の生活スタイルの変化に応じた新たなモードの創造に寄与したことを結論としている。</p>																				
審 査 委 員	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">(主査)</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">教 授</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">徳 井</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">淑 子</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">教 授</td> <td style="text-align: center;">安 成</td> <td style="text-align: center;">英 樹</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">准教授</td> <td style="text-align: center;">鈴 木</td> <td style="text-align: center;">禎 宏</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">助 教</td> <td style="text-align: center;">田 中</td> <td style="text-align: center;">琢 三</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">日本女子大学 教授</td> <td style="text-align: center;">佐々井</td> <td style="text-align: center;">啓</td> </tr> </table>	(主査)	教 授	徳 井	淑 子		教 授	安 成	英 樹		准教授	鈴 木	禎 宏		助 教	田 中	琢 三		日本女子大学 教授	佐々井	啓	
(主査)	教 授	徳 井	淑 子																			
	教 授	安 成	英 樹																			
	准教授	鈴 木	禎 宏																			
	助 教	田 中	琢 三																			
	日本女子大学 教授	佐々井	啓																			